

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300969		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホームたみの里 一日乃出町 1階ユニット		
所在地	静岡県富士市日乃出町81		
自己評価作成日	平成27年3月9日	評価結果市町村受理日	平成27年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kami=true&jiyosyoCd=2272300969-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本の季節行事を行ったり、外出を通して季節感を持って頂き、楽しんで1年を生活していただいたり、日常生活では、張り合いのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの力を活かした役割を持っていただくよう努めています。また、入居者の健康管理にも力を入れており、食事の摂取量、体重の増減等から体調の変化に留意しています。食事も、4事業所統一の献立となっておりますが、週に1、2回お楽しみ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設12年目となり、取組みを深く耕す段階に入っています。中でもケアマネジメントは現在のケアマネージャーが熱心です。支援経過に落とし込む重点が一目でわかるよう経過記録の書き方の指導に取組み、プランの回覧及びチェック印とともに「このケアに毎日責任をもちます」との約束が成されたこととして臨んでいます。顕著な問題行動にはユニット合同でケース検討会議をおこない、常設のカンファレンスでは些細な情報も挙がっています。また、富士市介護保険課によるセンター方式普及事業の講座ではケアマネージャーが講師を、職員2名もファンテータを務め、地域事業所の介護力向上にも協力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生き生き生きるを運営理念とし、管理者、職員一同、その理念を共有し、利用者様の希望に沿ったケアを実践している。	覚えやすく馴染んでいますが、初めての試みとして本年度は理念に基づき個人目標を立てています。年2回の自己評価において「自己アピール欄がさらに明瞭になれば」との管理者の発案から始まったもので、達成のプロセスで培われる財に期待が寄せられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内で行われる年2回の防災訓練や一月に地区の公園で行われるどんど焼きに参加し、地域の方々との交流を図っている。	『なしの花』のボランティア訪問は10年余のおつきあいとなり、マジックや踊りで楽しませてくれます。散歩に出かける公園では子どもたちに会えることもあり、中高生の福祉体験や実習受入れでのふれあいもあります。また、地域防災訓練ではどんど焼きにも加わっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時にも、近隣の方への挨拶は利用者と共にこない、時折、談話をして交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催し、市町職員、包括センター担当者、町内会長、民生委員等と意見交換をし、サービスの向上に活かせるようしている。	年間計画として年度初めにメンバーには知らせして、定期開催を確実なものにしています。事業所の状況報告は無論、地域包括支援センターに寄せられる管轄域の課題にまで及び、広い目と温かい手での意見交換に至っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して意見交換をしている。	運営推進会議に市職員の隔回出席があり、地域包括支援センターからは毎回出向いてもらっています。富士市介護保険課によるセンター方式普及事業の講座では管理者が講師を、職員2名もファシリテータを務め、地域事業所の介護力アップに協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には、全職員が身体拘束をしないケアについては認識しており実践している。外出希望のある利用者にも付き添えるよう努めているが、その時の状況で対応難しい時は安全確保を優先し、短時間での施錠を行う事もある。その際には、記録を詳細にとるよう努めている。	その時の職員数によっては安全第一として玄関を施錠していますが必ず記録をとり評価をおこなっています。ほかにも不眠から夜間転倒を起こす利用者場合は、家族の強い希望もあり同意書を経てベットの柵を設置し、いずれも適正な手続きを踏んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待に対して、あってはならない行為を理解してケアしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、御家族からの相談があれば対応できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者の家族に十分な説明をして、疑問があれば納得のいくように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された家族から直接、意見、要望等を伺い、早急に対応できる事は、即実行に移し、話の内容によっては、全職員への通達を行い対応するよう努めている。	昨年11月から家族への手紙を『笑顔通信』としてより丁寧に執り行っています。「(面会の都合上)事前にわかれば助かる」との声から行事予定を盛り込み、また日頃の様子が伝わる写真と担当職員のコメントを挿入して「楽しみにしている」との声も届いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、常に聞き入れ、各ユニット会議時等に提案できるよう努めている。	利用者のなかには著しい症状の人もいます。すべての職員に受容力があるとはいえず、また不満や不安を表出しにくい職員もいるため、皆で話し合う時間を大切にしています。年度末の自己評価では個人面談をおこない、日常的にも管理者が個人的な相談に応じています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	期末に職員に向けて自己評価を行い、各自の意欲向上を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の経験年数や職場での、置かれている状況等によって、研修に参加し、活かせる様心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市内のグループホーム連絡会に参加し、研修や職場交換実習をするなどして、自らの施設を見直し、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はこまめに声かけをし、その方の暮らしてこられたこれまでの様子を聞き取りケアに生かせるよう努力している。また、家族からも出来るだけ話を聞くようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は家族に対して連絡をこまめにとり、要望や不安なことなど聞くようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時ご家族の施設に対して希望することなどを聞き、サービスに生かすよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りの手伝いや片付けをして頂いたり、洗濯物をたたんで頂いたり、日常出来る事を職員と共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の関係を理解し、立場を認め、その上で、より良い関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人、知人、なじみの方との面会はいつでもできるようにしている。	習慣が途絶えないよう事業所のできることは精一杯おこなっていて、地元紙富士ニュースへの掲載に期待を膨らませ毎回句を練り、また年金友の会のカラオケ大会を心待ちにする人もいます。100歳を超えてもお編み棒で腕を振るう利用者の枕元には編み物セットがあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話を大切にしながら、時に職員が間に入り、共に会話を楽しんだり、仲を取り持つようにして、利用者同士の人間関係が円滑に行くように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要として下さる方とは、長くお付き合いをして頂けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の会話の中で不安や悩み等の思いや希望などを見つけ、職員間で話し合っている。利用者の希望に添えるよう努めている。困難な場合は家族との連携を取り、意向にそえるよう努めている。	1対1の会話のとき、特に入浴ではリラックスして言葉が増えるため、聞き取りにより機会と捉えています。職員が聴取した内容は1階は管理者、2階はケアマネージャーに報告され、一元化のうえプランにつなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、利用者本人や家族からの情報収集を行い、アセスメントシートが作成されており、利用者の生活状況・身体状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況変化時、定時においては、カンファレンスをおこない記録に記している。問題となっている事を、御家族本人を含め、関連している各者と話し合い、必要なアドバイスを受け本人の意向に沿えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の各ユニット会議、随時のカンファレンス、日々のケアの中で意見交換を行い、御家族の要望を取り入れながら介護計画書の作成をしている。	支援経過に落とし込む重点が一目でわかるよう経過記録の書き方の指導に取組み、プランの回覧及びチェック印とともに「このケアに毎日責任をもちます」との約束が成されたこととして臨んでいます。また、徹底すべきことはケアマネージャーが赤ペンで加筆しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活状況や心理的变化、身体状況等ありのままを経過記録として記入している。経過記録は職員間で共有されており情報交換により実践に反映されるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況によりその都度検討され、実行後はそのサービスが適切であったか再度皆で話し合い、より良いサービスの提供ができるよう柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要時であれば地域資源を活用し、利用者一人一人が楽しむ事に協力して頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調管理を行い受診状況等は家族と連絡を取り合い、安心して頂けるように努めている。	かかりつけ医を継続している人もいます。事業所の協力医か、かかりつけ医かどうかにかかわらず、家族の受診付き添いに無理があれば職員が代行しています。協力医併設の訪問看護が週2回来所して、健康管理及び医師との連携をおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、訪問看護師に来て頂いている。日々の経過や気づいた点は、直接、又は看護日誌に記録して状況を伝え、適切な処置が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際はホームでの提供に努め、利用者が不安にならない様徹底した治療を行うよう協力している。又、入院中は家族に安心して頂ける様、情報交換をしている。また利用者・家族と面話し退院が円滑に行くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の今後の対応に対しては、家族と話し合い、意向を元に状況を把握しケアをするよう努めている。又主治医と話を重ね、家族と利用者を安心させ、チームで支援に取り組んでいる。	本年1名の看取りがあり、滞りなくお見送りが叶いました。また偲びのカンファレンスやグリーフケアはおこなっていませんが、亡くなったあと花を支度しご飯を炊いて納棺し、お見送りを整えることで職員の気持ちも穏やかなものへと導かれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、急変時の対応にあたっている。応急手当、初期対応等の研修は受けていない職員が多い為、今後、段階的に行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回利用者と共に防災訓練を行っている。	本年度は消防署員の立ち会いがなかったので、来年度はぜひ基本を改めて学ぶ予定です。11月に夜間の火災想定で実施した訓練は、全職員周知のため2回繰り返し、また防災機器業者による通報装置や消火器の取扱い指導を受けました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、その時に 応じた言葉掛けをするよう心掛けている。	以前は「おトイレは？」とダイレクトに誘ったり、声 が大きい職員もいましたが、法人本部の接遇訓 練を経て現在は違和感なく誘導できるようになり ました。汚れた下着をしまい込んでしまう人 には、散歩中に洗濯してさりげなく元に戻すといっ た対応をおこなっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、一人一人の会話や行動の 中で、利用者様の希望や思いを感じ読み取 り、できる限り叶えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人が一日にやりたい事を自由 にできるように声掛けをしたり、行動を読み 取り、可能な限り、自由に行って頂けるよう 環境作りを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	訪問美容の提供や職員により髪のカットを 行ったり、御家族同行にて床屋に行き、散髪 を行っている。気候に合う服装、外出時の服 装選びの手伝いをし、起床時や入浴後に髪 のセットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	週1、2回お楽しみ献立があり、利用者様の 好みを考え、喜んで頂けるような献立を調理 する人が考えている。食前の準備、片付けは できる事を手伝って頂き、職員と食事を共に し、利用者との時間を共有している。	法人がたてた献立により、各ユニットで手づくりし ています。週に1～2回季節感や好みを取り入れ た『お楽しみメニュー』の日があり、また誕生日に は寿司や赤飯で祝っています。利用者の中でも できる人はもやしのひげとりや食器拭きを手伝っ ています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事担当が献立表を確認し、メニューの見直 しを行っている。利用者一人一人に合わせた 食事形態で提供している。一日の食事量、水 分摂取は日誌に記入し、利用者の状態を把 握する為の目安となっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、自分でできる方は声掛けにて行っ て頂き、介助が必要な方はできる部分を行っ て頂き、できない部分は職員が口腔ケアを行っ ている。希望により週に一度、訪問歯科を受 診する利用者もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握してその人に合わせた時間誘導をし、声掛け等も工夫し、オムツやパットの使用をなるべく減らしていけるよう努め、自立に向けた支援を行っている。	各ユニットにいる排泄係を中心に、パターン把握だけでなくパットの選定やオムツの発注がおこなわれています。家族の経済的負担を減らすことにも苦心、また向上することのみを目指すのではなく、本人の快適がどこにあるかに注視しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時、15時の水分摂取と入浴後、なるべく水分が摂れるように声掛けをする。運動不足からくる便秘予防には、毎日体操をしたり、毎朝ヨーグルトの提供をしている。排泄チェック表で排便量を把握し必要な場合は、薬で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者個々の状態に合わせて入浴順序を変えたり、介助の方法や器具の工夫をして安心して入浴できるようにしている。また入浴剤を使用したり、湯温を一人一人の好みに合わせ、入浴を楽しみやすい環境作りに努めている。	同性介助の希望はありません。拒否には一旦退くようにしていますが、回数を重ねて職員のタイミングや声かけも上達してきています。浴剤は種類を備えています。湯は一人ひとり入れ替えてはいません。身体状態を鑑みてシャワー浴となっている人が3名います。	理由は様々あるにせよ、湯に浸かる喜びが実現できないものか、一度検討されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠して頂けるよう、日中は、レクリエーションや家事等をして過ごして頂いている。又、体力、体調を考慮し、臥床時間を設けたり、休息の時間を取れるよう、各利用者に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の処方箋をファイルにまとめ、職員がいつでも確認できるようにしている。変更等があった場合、申し送りとして詳しく記入し、周知徹底している。その様子観察も行い記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状態に合わせて洗濯物たたみ、食事の準備、片付けなどの役割を持って頂いている。又、個々の時間やレクリエーションの時間においても楽しみ事を持って頂くよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候や希望に合わせて日常的に近くの公園まで散歩に出掛けている。時には、車で外出をしたり、計画を立てて季節を楽しような外出の機会を作っている。	「車いすとなったからできない」ということがないよう努めています。2つのユニットの交流も図られるようにと外食や外出を合同でおこない、眺めの良いロゼシアターレストランで和食を堪能し、富士花鳥園の遠足を愉しました。また法人主催の岳南鉄道の旅には3名が参加しました。	身体状態だけでなく行動心理症状が良い、悪いで散歩の頻度に大きな差がでていなか、でているならば外気浴をはじめ代替メニューがあるかなど実施記録及び協議を進めることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物を自由にする楽しみをもってもらうように、自己管理できる方には金銭を所持して頂いている。遠足等の外出時にお土産等を購入して頂く事もあり、本人の希望でお金を使えるようしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に応じていつも使用して頂けるようしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、利用者には不快感を与えない光度、温度、湿度の調整に細心の注意をしている。日中臥床されている時間が長い利用者様の居室は、光度により、照明の点灯に心掛けている	温度湿度計を置き、オン・オフを細目におこなうことで居心地のよい環境をつくっています。開設当初からなじんだ食卓の椅子は長いお勤めを果たし本年度入れ替え、安定感が増しています。外出の写真は訪れた家族や利用者が見やすいように引伸ばしてあり、配慮を感じます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間ではテレビを観たり、ソファでくつろいだり、談話されたりし、レクリエーションの時間は一つのテーブルに集まり、体操等を皆で楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れていた物等を持参して頂き、利用者の好みに合わせている。利用者の活動範囲に合わせ、配置を変えたり、物の整理をしている。	嗜みの俳句や家族が持ち寄ったフラワーアレンジメントや愛読書、時節の吊るし雛、若かりし頃描いた油絵と、それぞれの趣ある居室を視認しました。毎日身支度をするという鏡台、日記帳が置かれた机からはその人の暮らし方が垣間見え印象的です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の解消や手すりの設置によって、利用者個々の歩行や移乗の力を安全に活かしてもらうよう努めている。また、各居室に表札を付け、わかりやすく工夫をし、自立した生活への支援をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300969		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホームたみの里 一日乃出町 2階ユニット		
所在地	静岡県富士市日乃出町81		
自己評価作成日	平成27年3月9日	評価結果市町村受理日	平成27年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本の季節行事を行ったり、外出を通して季節感を持って頂き、楽しんで1年を生活していただいたり、日常生活では、張り合いのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの力を活かした役割を持っていただくよう努めています。また、入居者の健康管理にも力を入れており、食事の摂取量、体重の増減等から体調の変化に留意しています。食事も、4事業所統一の献立となっておりますが、週に1、2回お楽しみ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設12年目となり、取組みを深く耕す段階に入っています。中でもケアマネジメントは現在のケアマネージャーが熱心です。支援経過に落とし込む重点が一目でわかるよう経過記録の書き方の指導に取組み、プランの回覧及びチェック印とともに「このケアに毎日責任をもちます」との約束が成されたこととして臨んでいます。顕著な問題行動にはユニット合同でケース検討会議をおこない、常設のカンファレンスでは些細な情報も挙がっています。また、富士市介護保険課によるセンター方式普及事業の講座ではケアマネージャーが講師を、職員2名もファンテータを務め、地域事業所の介護力向上にも協力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生き生き生きるを運営理念とし、管理者、職員一同、その理念を共有し、利用者様の希望に沿ったケアを実践している。	覚えやすく馴染んでいますが、初めての試みとして本年度は理念に基づき個人目標を立てています。年2回の自己評価において「自己アピール欄がさらに明瞭になれば」との管理者の発案から始まったもので、達成のプロセスで培われる財に期待が寄せられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内で行われる年2回の防災訓練や一月に地区の公園で行われるどんど焼きに参加し、地域の方々との交流を図っている。	『なしの花』のボランティア訪問は10年余のおつきあいとなり、マジックや踊りで愉ませてくれます。散歩に出かける公園では子どもたちに会えることもあり、中高生の福祉体験や実習受入れでのふれあいもあります。また、地域防災訓練ではどんど焼きにも加わっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時にも、近隣の方への挨拶は利用者と共にこない、時折、談話をして交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催し、市町職員、包括センター担当者、町内会長、民生委員等と意見交換をし、サービスの向上に活かせるようしている。	年間計画として年度初めにメンバーには知らせして、定期開催を確実なものにしています。事業所の状況報告は無論、地域包括支援センターに寄せられる管轄域の課題にまで及び、広い目と温かい手での意見交換に至っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して意見交換をしている。	運営推進会議に市職員の隔回出席があり、地域包括支援センターからは毎回出向いてもらっています。富士市介護保険課によるセンター方式普及事業の講座では管理者が講師を、職員2名もファシリテータを務め、地域事業所の介護力アップに協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には、全職員が身体拘束をしないケアについては認識しており実践している。現状1名の利用者のみ身体拘束をしている。ご家族との話し合い及び職員への周知をおこなったうえ、ご家族よりの同意書、実践時の別紙による経過観察、カンファレンス、ケアプラン等は解除を前提としている	その時の職員数によっては安全第一として玄関を施錠していますが必ず記録をとり評価をおこなっています。ほかにも不眠から夜間転倒を起こす利用者の場合は、家族の強い希望もあり同意書を経てベッド柵を設置し、いずれも適正な手続きを踏んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待に対して、あってはならない行為を理解してケアしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、御家族からの相談があれば対応できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者の家族に十分な説明をして、疑問があれば納得のいくように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された家族から直接、意見、要望等を伺い、早急に対応できる事は、即実行に移し、話の内容によっては、全職員への通達を行い対応するよう努めている。	昨年11月から家族への手紙を『笑顔通信』としてより丁寧に執り行っています。「(面会の都合上)事前にわかれば助かる」との声から行事予定を盛り込み、また日頃の様子が伝わる写真と担当職員のコメントを挿入して「楽しみにしている」との声も届いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、常に聞き入れ、各ユニット会議時等に提案できるよう努めている。	利用者のなかには著しい症状の人もいます。すべての職員に受容力があるとはいいい難く、また不満や不安を表出しにくい職員もいるため、皆で話し合う時間を大切にしています。年度末の自己評価では個人面談をおこない、日常的にも管理者が個人的な相談に応じています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	期末に職員に向けて自己評価を行い、各自の意欲向上を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の経験年数や職場での、置かれている状況等によって、研修に参加し、活かせる様心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市内のグループホーム連絡会に参加し、研修や職場交換実習をするなどして、自らの施設を見直し、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はこまめに声かけをし、その方の暮らしてこられたこれまでの様子を聞き取りケアに生かせるよう努力している。また、家族からも出来るだけ話を聞くようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は家族に対して連絡をこまめにとり、要望や不安なことなど聞くようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時ご家族の施設に対して希望することなどを聞き、サービスに生かすよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りの手伝いや片付けをして頂いたり、洗濯物をたたんで頂いたり、日常出来る事を職員と共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の関係を理解し、立場を認め、その上で、より良い関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人、知人、なじみの方との面会はいつでもできるようにしている。	習慣が途絶えないよう事業所のできることは精一杯おこなっていて、地元紙富士ニュースへの掲載に期待を膨らませ毎回句を練り、また年金友の会のカラオケ大会を心待ちにする人もいます。100歳を超えてもお編み棒で腕を振るう利用者の枕元には編み物セットがあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話を大切にしながら、時に職員が間に入り、共に会話を楽しんだり、仲を取り持つようにして、利用者同士の人間関係が円滑に行くように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要として下さる方とは、長くお付き合いをして頂けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日常の会話の中で不安や悩み等の思い希望等を見出し、常に職員間で話し合っている。利用者の希望に添えるよう努めている。困難な場合は、ご家族と連携をとり、協力を依頼し、意向にそえる暮らしを実現できるように努めている。	1対1の会話のとき、特に入浴ではリラックスして言葉が増えるため、聞き取りによい機会と捉えています。職員が聴取した内容は1階は管理者、2階はケアマネージャーに報告され、一元化のうえプランにつなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、利用者本人やご家族からの情報収集をおこない、アセスメントシートを作成し、利用者の生活状況・身体状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況を把握するために、バイタル、食事量の定期的なチェックと観察を行っている。利用者のできる部分は、利用者の力で出来るように援助している。身体機能の維持の為に体操やレクリエーションの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況の変化時、定時においては、カンファレンスを実施し記録に記している。課題となる事を本人ご家族を含め、関連している各者と話し合い、必要なアドバイスを受け、本人の意向に即した介護計画を作成している。	支援経過に落とし込む重点が一目でわかるよう経過記録の書き方の指導に取組み、プランの回覧及びチェック印とともに「このケアに毎日責任をもちます」との約束が成されたこととして臨んでいます。また、徹底すべきことはケアマネージャーが赤ペンで加筆しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活状況や心理的变化、身体状況等ありのままを経過記録として記入している。経過記録は職員間で共有されており、常に情報交換により実践へとつながるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況によりその都度検討され、実行後はそのサービスが適切であったか再度職員間で話し合い、その時々ニーズに柔軟に対応できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要時であれば地域資源を活用し、利用者一人一人が楽しむ事に協力して頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調管理を行い受診状況等は家族と連絡を取り合い、安心して頂けるように努めている。	かかりつけ医を継続している人もいます。事業所の協力医か、かかりつけ医かどうかにかかわらず、家族の受診付き添いに無理があれば職員が代行しています。協力医併設の訪問看護が週2回来所して、健康管理及び医師との連携をおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、訪問看護師に来て頂いている。日々の経過や気づいた点は、直接、又は看護日誌に記録して状況を伝え、適切な処置が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際はホームでの提供に努め、利用者が不安にならない様徹底した治療を行うよう協力している。又、入院中は家族に安心して頂ける様、情報交換をしている。また利用者・家族と面話し退院が円滑に行くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の今後の対応に対しては、家族と話し合い、意向を元に状況を把握しケアをするよう努めている。又主治医と話を重ね、家族と利用者を安心させ、チームで支援に取り組んでいる。	本年1名の看取りがあり、滞りなくお見送りが叶いました。また偲びのカンファレンスやグリーフケアはおこなっていませんが、亡くなったあと花を支度しご飯を炊いて納棺し、お見送りを整えることで職員の気持ちも穏やかなものへと導かれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、急変時の対応にあたっている。応急手当、初期対応等の研修は受けていない職員が多い為、今後、段階的に行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回利用者と共に防災訓練を行っている。	本年度は消防署員の立ち会いがなかったので、来年度はぜひ基本を改めて学ぶ予定です。11月に夜間の火災想定で実施した訓練は、全職員周知のため2回繰り返し、また防災機器業者による通報装置や消火器の取扱い指導を受けました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、その時々 に合った言葉掛けをするよう心掛けている。	以前は「おトイレは？」とダイレクトに誘ったり、声 が大きい職員もいましたが、法人本部の接遇訓 練を経て現在は違和感なく誘導できるようにな りました。汚れた下着をしまい込んでしまう人 には、散歩中に洗濯してさりげなく元に戻すとい った対応をおこなっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	日常生活の利用者との会話や行動の中で、 一人一人の思いや希望を表現出来るよう にし、その希望を読み取り、出来る限り叶えら れるように手伝いをするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人が一日にやりたい事を自由 にできるように声掛けをしたり、行動を読み 取り、可能な限り、自由に行って頂けるよう 環境作りを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	訪問美容の提供や職員により髪のカットを 行ったり、御家族同行にて床屋に行き、散髪 を行っている。気候に合う服装、外出時の服 装選びの手伝いをし、起床時や入浴後に髪 のセットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	週1、2回お楽しみ献立があり、利用者様の 好みを考え、喜んで頂けるような献立を調理 する人が考えている。食前の準備、片付けは できる事を手伝って頂き、職員と食事を共に し、利用者との時間を共有している。	法人がたてた献立により、各ユニットで手づくりし ています。週に1～2回季節感や好みを取り入れ た『お楽しみメニュー』の日があり、また誕生日に は寿司や赤飯で祝っています。利用者の中でも できる人はもやしのひげとりや食器拭きを手伝っ ています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事担当が献立表を確認し、メニューの見直 しを行っている。利用者一人一人に合わせた 食事形態で提供している。一日の食事量、水 分摂取は日誌に記入し、利用者の状態を把 握する為の目安となっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、自分でできる方は声掛けにて行っ て頂き、介助が必要な方はできる部分を行っ て頂き、できない部分は職員が口腔ケアを行っ ている。希望により週に一度、訪問歯科を受 診する利用者もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握してその人に合わせた時間誘導をし、声掛け等も工夫し、オムツやパットの使用をなるべく減らしていけるよう努め、自立に向けた支援を行っている。	各ユニットにいる排泄係を中心に、パターン把握だけでなくパットの選定やオムツの発注がおこなわれています。家族の経済的負担を減らすことにも苦心、また向上することのみを目指すのではなく、本人の快適がどこにあるかに注視しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時、15時の水分摂取と入浴後、なるべく水分が摂れるように声掛けをする。運動不足からくる便秘予防には、毎日体操をしたり、毎朝ヨーグルトの提供をしている。排泄チェック表で排便量を把握し必要な場合は、薬で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各利用者の湯温の好み、入浴の順番、介助の方法、椅子の置き方等を工夫し、その日の体調や状態に応じ、安心して楽しく安全に入浴できるよう配慮している。	同性介助の希望はありません。拒否には一旦退くようにしていますが、回数を重ねて職員のタイミングや声かけも上達してきています。浴剤は種類を備えています。湯は一人ひとり入れ替えてはなりません。身体状態を鑑みてシャワー浴となっている人が3名います。	理由は様々あるにせよ、湯に浸かる喜びが実現できないものか、一度検討されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションや家事等を行い活動的に過ごして頂いている。体調に合わせて日中から休息の時間を取れるよう利用者に合わせ支援している。夜間も各利用者の体調に合わせて入床の促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の処方箋をファイルにまとめ、職員がいつでも確認できるようにしている。変更等があった場合、申し送りとして詳しく記入し、周知徹底している。その様子観察も行い記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の流れの中で清掃、洗濯物たたみ、食後の片付け等できる方にはお手伝いして頂き、各利用者にあったペースで支援している。一人一人が楽しく過ごせるように、居室で歌の練習、編み物等の時間を作り、外出の支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節に応じ、温暖の日には日常的に近くの公園へ散歩に出掛けたり、花見等の見学に出掛け外気欲を楽しんだり、レストラン等外食にも定期的に出掛け、個人的な希望も把握し、家族等と協力しあい戸外へ出掛ける支援もしている。	「車いすとなったからできない」ということがないよう努めています。2つのユニットの交流も図られるようにと外食や外出を合同でおこない、眺めの良いロゼシアターレストランで和食を堪能し、富士花鳥園の遠足を愉しまました。また法人主催の岳南鉄道の旅には3名が参加しました。	身体状態だけでなく行動心理症状が良い、悪いで散歩の頻度に大きな差がでていなか、でているならば外気浴をはじめ代替メニューがあるかなど実施記録及び協議を進めることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物をする楽しみを持って頂くように、自己管理ができる方には金銭を所持して頂き、家族と外出した時に商品を購入して頂き、通販等本人が欲しいと話した時は、職員の支援で注文したり、遠足等の外出時に本人の希望があればお土産を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば電話や手紙のやり取りをいつでもできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには職員と利用者の共同作業で作った季節感のある壁飾りを展示している。室内の温度、湿度、光度の調整に細心の注意を払い、安心して落ち着いて過ごせるよう音等にも配慮している。	温度湿度計を置き、オン・オフを細目におこなうことで居心地のよい環境をつくっています。開設当初からなじんだ食卓の椅子は長いお勤めを果たし本年度入れ替え、安定感が増しています。外出の写真は訪れた家族や利用者が見やすいように引伸ばしてあり、配慮を感じます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間ではテレビを観たり、ソファーでくつろいだり、談話されたりし、レクリエーションの時間は一つのテーブルに集まり、体操等を皆で楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れていた物等を持参して頂き、利用者の好みに合わせている。利用者の活動範囲に合わせ、配置を変えたり、物の整理をしている。	嗜みの俳句や家族が持ち寄ったフラワーアレンジメントた愛読書、時節の吊るし雛、若かりし頃描いた油絵と、それぞれの趣ある居室を視認しました。毎日身支度をするという鏡台、日記帳が置かれた机からはその人の暮らし方が垣間見え印象的です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の解消や手すりの設置によって、利用者個々の歩行や移乗の力を安全に活かしてもらうよう努めている。また、各居室に表札を付け、わかりやすく工夫をし、自立した生活への支援をしている。		